

新山協ニュース

第12号 新潟県山岳協会

発行者 鈴木敏雄

国体雑感

藤井 信

公開種目であった山岳が、第35回栃木国体から天皇、皇后の得点正式種目としてスタートした。

雨の中での競技を最後に全種目を終了する。

昨日とうって変わって小春びよりの中、表彰式会場の日光市総合会館に、各県の監督、選手が続々と集結してくる。

会館前の大きな得点掲示板に各県の最終得点を役員が書き込んである。食っているように書かれてゆく数字を追う。

自県の得点を捜す。次々と記録される目の数字は、互いにはげまし合い、精一杯健闘した四日間の結果なのである。

国体の県代表選手として、強化合宿を重ね、競技に臨んだとはいえ、成績の良かったもの、不本意で終わったもの、監督、選手の胸中を察するものがある。始めて経験する得点正式種目としての山岳競技

のうけとめ方も、得点の多寡が大きく異なるようだ。

立派な成績を収めた県の監督、選手は、少しぐらいのトランプは問題にしないだろう。

体一杯に喜びをあらわし、健闘を讃え合い勝利を味わっている。

その反面、成績の悪いチーム程、競技への疑問や批判的な意見もだしていたようだ。

本県の成年男子の成績は、種目第15位であった。縦走競技第一日目、14県、第二日目、15県の得点が0点という結果のなか第15位は、良く健闘した。選手の皆さん、「本当に御苦労様でした。」

正式競技に移行するため、協会の行事の中でいろいろ努力をしたつもりでしたが、国体山岳競技の変化に十分対応することができず、選手の皆さんに、いやな思いをさせた。指導力の弱さを痛感するとともに深く反省しています。国体山岳競技をもう一度考えてみよう。

◎正式種目へ移行した背景
登山の競技化には、今だに疑問も多く理解できないという人も多いと思いますが、登山が国体に参加して長い実績をもち、今後も参加することになれば、競技化は必然的なことであるし、文部省や日本体育協会の国体に関する開催基準要項が改訂され、競技化せざるを得なくなった。

◎登山を個人的立場から
登山は本来個人的なものであるから、登山の本質も形式もいろいろある。登山の本質を論ずれば、登ろうとする山との闘いがあっても、全国の山友との間に友好こそ深めても競うことはない。趣味とし

て山登りを楽しめばよいというところが一般的を論である。◎新山協の立場から
高校登山部、大学山岳部、各社会山岳会が加盟して、構成する新山協、各県の連盟協会で構成する日本山岳協会、更に各競技団体で構成する、日本体育協会、以上のような組織のかわり合いから、競技化について、個人的な考え方や、組織の中で決定された競技化に対し、意に反するからといって無視することもできないのではなからうか。

な体力、基本技術とスピード
山行のための知識、どれ一つ
私達の山行に欠かすことがで
きないものと思う。

山岳競技について、他県で
の取り組み方も真剣である。
第36回滋賀国体の選手の選考
をすでに済せ、選手強化には
いっている県、選手の育成と
連続出場で高成績をねらって
いる県、選手強化のための強
力をコーチ制を確立している

県など、天皇、皇后杯の得点
獲得のため最大限の努力がは
かられている。

県協会も栃木国体の反省か
ら、競技化への対応策が検討
された。選手選考方法、優秀
選手の育成、指導体制の確立
などで、立派な岳人育成が国
体競技で、即優秀な成績を収
められるような体制を考えて
みたい。御理解と御協力を願
います。

栃の葉国体参加報告

成年男子監督 高橋正英

10月12日宇都宮での開会式
終了後、その足で日光市へ戻
り、山岳の開始式があり、そ
の場において各県一名の選手
で、天気図作成提出と強行ス
ケジュールで大会は始まった。
気象係の上條の帰りを待って
宿の夕食を取ったのは午後8
時過ぎであった。入浴後明日
の準備をする。上條の体調が
良くないのが気になる。我々
は上條の重量を17Kgにして、

山田23Kg、大桃22Kg、計62Kg
にセットしてフトンにもぐり
込んだ。

10月13日午前5時宿舎を後
にバスターミナルへ向う、あ
いにくの雨である。我々一
はT₁コースから競技開始なの
だ。このコースは7月に現地
調査に来た時に、日程の關係
で、カットしており未踏のま
まであり、上條の体調と共に
非常に気になる。しかも歩き

出し直後行者堂より少し上部
黒岩より女峰山頂までに二ヶ
所の特 구간がある。ここをな
んとか切り抜けてくれること
を、念じながら出発点日光小
へ向う選手のバスを見送る。

午前8時監督は今日の幕當地
光徳へバスで出発する。光徳
へは9時頃に到着した。雨は
増々激しく降っている。選手
のことが気になるが、どうし
ようもない。雨の中でジッと
待機だ。10時過ぎ愛媛失格の
報入る。しばらくして山形失
格……午後15時30分選手が幕
當地へ到着する。しかし選手
との接触は禁じられたまま天
幕設営テスト、コンロ燃焼テ
ストと雨中で続く。第一日目
競技終了はもう足元もおぼつ
かない位暗くなっていた。テ
ント内でもようやく選手と言葉
を交すことが出来た。皆でま
ずウイスキーを飲む。選手の
話を聞いて見ると、上條をか
ばい過ぎた重量配分と未踏査
のコースであったことで持力
を充分発揮できなかった様で
ある。また天幕設営テストに

しても制限時間内に設営は出
来たものの、他県のテントよ
り10本近くも、ベグの数が多
いと云う事も問題であると思
うし、設営競技のポイント部
分を知っておくべきであった。
また非常にカサばりパッキン
グに苦労しました。

10月14日、今日は重量を前
日より落とし60Kgとする。競
技は天幕の撤収から始まった。
午前6時選手出発。このT₂コ
ースは前日のT₁コースと違っ
て踏査済みなので比較的気が
楽である。私達監督は選手を
見送って、その後を追って湯
元へ。昨日とはうって変って
快晴である。12時を過ぎると、
選手の情報が入って来た。二
つの特 구간で失格県が続出し
一班15県中実に8県がオーバ
ertimeで失格であった。今
日は実力通り頭張り、一班で
3位であった。

10月15日、いよいよ問題の
登攀である。スタート順11番
で、午後のトップであった。
コンディションは快晴で上々
13時スタート、選手はもちろ

んであろうが見てる私の方も
緊張する。登攀そのものは、
まずまずと思ったが、やはり
ザイル操作のスピードがいか
んとおもしろがたく、一班中12位
とふるわなかった。

10月16日、最終日はS₁コー
スである。岩手について、二
番スタート。無線の連絡では
まずまずのペースで回ってい
る様である。三番スタートの
本命栃木がゴールして26分後
に、前走岩手を抜いてゴール
に帰って来たが、問題は設問
の解答がどうかであったが、
一班中7位と言う結果で競技
を終了し、総合成績では15位
に終りました。とにかく終っ

たと言う開放感と同時に、チ
ョピリ無念さも同居してい
ました。やはり正式種目と言
うことで各県とも、国体経験
者を中心に選手を送り込んで
来ている所が多い様に思われ
ます。我々の持力不足もさる
ことながら、競技登山に対す
る、対処の姿勢に問題があっ
たのではと反省もしています。

大韓民国 晶元山岳会

来日登山日程表とメンバーならびに最新の便り

1980. 12. 25 ~ 1981. 1. 10

月・日	曜日	行 動	備 考
12月 25日	木	日本国入国→新潟泊	望月海外登山委員長 出向い、合流
26日	金	新潟→巻町越前浜研修センター泊・登山準備打合せ会 (1:30) (装備・食糧購入)	室賀協会長、鈴木理事 長、他と合流
27日	土	巻町越前浜 研修センター (1:30) → 東三条駅 (2:40) → 土樽駅 (上越線 15:00) 土樽山の家泊	杉原指導員長、他と 合流、山行行動する
28日	日	土樽山の家 (3:00) → 東俣沢出合 (5:00) → 蓬 峠 山小屋泊	
29日	月	蓬峠山小屋 (4:00) → 武能岳 (4:00) → 茂倉岳 山小屋泊 途中雪上訓練	日程は天候・体 調等により変更 することあり
30日	火	茂倉岳 山小屋 (3:00) → ノ倉岳 (5:00) → 谷川岳 (0:30) → 肩ノ小屋泊 途中 雪上訓練	
31日	水	肩ノ小屋 (5:00) → 西黒沢出合 (0:30) → 土合駅 (15:14 上越線 17:30) → 長岡駅	室賀協会長、藤井国 体委員長、田中副指 導員長、他と合流
1月 1日	木	谷川岳山行反省会、次山スキー・山行準備打合せ、市内案内 (装備・食糧購入)	
2日	金	赤倉 長岡駅 (10:11 信越本線) → 妙高高原駅 (12:08) → 池の平泊 山スキー研修 (池の平)	新潟県山岳協会上越 地区団体と合流研修
3日	土	山スキー研修	
4日	日	山スキ ー研修 (前山) (1:00) → 妙高高原駅 (13:14) → 白山1号 → 富山駅 (15:24) → 立山駅 (15:52) → 立山駅 (17:00) 文部省登山研 修所泊、登山 技術交流会	富山県山岳連盟、合 流 交換会
5日	月	立山駅 (9:18) → 白山4号 → 富山駅 (10:20) → 東京泊 (10:44) → 東京泊 (17:00)	
6日	火	新宿駅 (7:30) → 河口湖駅 (9:33) → 富士山五合目泊 冬山水雪訓練 (3:00)	静岡県山岳連盟、合 流 訓練交換会
7日	水	冬山水雪訓練交換会 (富士山五合目 ← 富士山山頂)	
8日	木	冬山水雪訓 練交換会 (宝永山) (3:00) → 河口湖駅 (16:47) → かいじ4号 → 大月駅 (17:32) → 新宿駅 (17:34 中央本線 18:49) 東京泊	
9日	金	日本山岳協会表敬訪問	
10日	土	帰 国	

室賀様

ひさしぶりですね、お元気ですか。

おくって下さった招待状で手続を取っています。12月中頃から1月初頃までには出発出来るとおもいます。

鈴木様のお手紙の内容に私達も賛成いたします。今度の貴国訪問の時、貴山岳会と私達の山岳会との間に姉妹結縁をむすぼうとします。必要な書類はこちらでつくって持っていきます。去る6月には長野県山岳会の小池さんの招待で隊員6名が中央アルプスにいらっしゃいました。アルプス及びヒマラヤ(マナスル)登山計画をしているので、こんどの日本登山を計画したのです。

私は、今、アフリカ縦断探検隊長として、来年4～5月出発予定で計画をしています。ケイプタウンからカイロまで自動車を利用して約90日間にわたる登山と探検を計画しています。

私は、貴山岳会との姉妹結縁を形式的にすますべきでなく、本格的な登山と探検活動を行いたいと考えています。そして、その記念事業として両登山会合同のアフリカ縦断探検はどうかと考えています。来年4～5月出発予定で、両方から各3～5名の隊員で探検隊を構成、費用は半分づつ負担、その他の条件は両方相談して決定すると。

その間、韓国と日本の間には山岳人の交流は多かったけれど、合同海外登山とか探検はいままでなかったので、この合同探検隊が結成出来れば両国の友誼増進にも役立つとおもいます。具体的事項は両方相談して決定すべきものですが、こちらの準備は出来ているので、貴方の決定が早ければ来年の4～5月出発予定に支障はないとおもいます。

室賀様の御意見を早く連絡して下さいませようお願いいたします。

室賀様のお元氣と御宅の皆様の幸運を祈りながら。

隊長 金 礼 變 (1951年3月1日生)
 本籍 ソウル市鍾路区八判洞 24 番地
 住所 " 城北区貞陵三洞 645-63
 職業 水産業 (晶元山岳會 理事)

副隊長 康 徳 寿 (1947年12月30日生)
 本籍 ソウル市恩平区旧把撥洞 61 番地
 住所 " " 津寛外洞 293-2
 職業 會社員 (晶元山岳會 理事)

隊員 李 俊 求 (1958年2月26日生)
 本籍 ソウル市恩平区旧把撥洞 43 番地
 住所 " " " 111 番地
 職業 會社員 (晶元山岳會 総務)

隊員 金 九 鉉 (1943年2月25日生)
 本籍 慶北義城郡義城邑道東洞 943-1
 住所 ソウル市西大門区弘恩2洞 11-455
 職業 會社員

隊員 許 烘 (1947年8月10日生)
 本籍 ソウル市鍾路区中学洞 108
 住所 " 銅雀区舍堂 4 181-221
 職業 會社員

隊員 李 焯 休 (1961年1月29日生)
 本籍 ソウル市鍾路区崇仁洞 63-8
 住所 " " 三清洞 24-1
 職業 学 生 (成均館大学)

隊員 白 仁 海 (1960年2月20日生)
 本籍 ソウル市城北区貞陵3洞 645-63
 住所 " " " 645-63
 職業 會社員

隊員 李 善 玉 (1960年7月23日生)
 本籍 京畿道富川市松内洞 81 番地
 住所 ソウル市西大門弘恩3洞 265-126
 職業 学 生

第35回栃木国体に参加して

下越山岳会 上條 力一郎

山岳競技が正式種目になって初めての国体は、日光山系の紅葉の中、四日間に渡って競われた。特別にどうこうというような国体用のトレーニングを横断していない私達は、受験勉強をしないで、大学を受験するようなもので、いざ、始まってみると大変なものでありました。まず縦走競技から行きますと、登りは特区间というものが設けられていて、ベストタイムが決められているのです。それでタイム内であれば減点なしのシステムなのですが、これが大変。早ければ良いのですから、ふらふらになろうがどうなるかが、皆んな必死に歩き続けます。上位入賞の人達は休まないでとにかく歩いていたようです。そこで我がパーティはと言えばザックを下ろしゆうゆうとしたもので、休んでいる間に他県パーティに抜かれてしまい、あわてて歩き始めるという繰り返し、ゴール少し

手前で休んでみたり、その他知らないことはいえ損ばかりしていたようです。それでも縦走2日目は、前日の靴を踏むまいと頑張りまして、オーバータイムで脱落するものを尻目に無事ゴール。縦走だけは8位となった次第です。さて三日目の登攀ですが台風一過とはこのこと、夜間大雨でパンガローに避難させられた事など嘘のような秋晴れで、この日はやはり美しい紅葉をアプローチ、とほとぼ歩きながら満喫。競技のほうなのですが、他とちがい選手・審判員が見守る中なもので、始まる前からポーンとしてしまい、にわかクライマー先ばかりあせて、すったもんだの末にゴール。それでもそんなに悪い方ではないだろうと思っていたのだが、次の日に点数を見て愕然、何と29点、スピードが足りなかった模様。ザイル操作の早さがものいうようだ。

第四日目の踏査競技である

が、縦走競技同様に三人で55kgという制限があり、標高差900mもある会場はけっこう厳しく、読図の良し悪しよりも、体力でタイムが決まるようなものであった。ポイン

トはルート通りに歩けば見落す事はないが、位置確認には苦労した。ゴール前には設問が渡されて解答してからゴールとなるのだが、1等〜3等までの三角点標石の一边の長さはいくらかなんて問題は、いくら競技とは言えバカみに思えた。

最後に誰でも気になるであろう総合成績は、第15位でした。見方は色々あると思うけど今考えるにもう少し何とかなったのに……という気持ち強い。登山は体力(パワー)・技術(テクニク)・知力(ブレイン)だそうだが、国体の山岳競技に関する限りは、点を取るテクニクがものを言い、今後新潟県選手が上位を望むならば、そこら辺のテクニクを受け継いで行くことが、重要であると思われる。

理事会報告

日時 11月8日(土) 16:19時
 会場 新発田市 豊国殿
 出席者 16名

討議してもらう。
 三 新規加盟団体の承認について

一、第35回国民体育大会の報告
 成年男子高橋監督より報告

縦走 8位
 登攀 30位
 踏査 20位
 総合 15位

合宿から大会まで経過報告
 別記国体報告を参考

二 今後の国体強化案について
 今迄登山技術の普及、登山の啓蒙を目的として、国体選手は四地区持回りで選出してきた。今後は以上の目的の他得点できる(入賞)競技に行かなければならない。

三 今後の対策
 予選会：従来通り四地区持回り
 選手：連続出場も可とする
 各地区に国体強化委員を設ける。

四 今年度事業の推進について
 1月 新年会 新潟 小林 兼一郎担当
 2月 冬山講習会 粟ヶ岳 望月力・久保敏男担当
 2月 指導員研修会 杉原 八百樹・田中栄弘担当
 3月 苗場山小松原スキー ツアー 桑原悌治・清水迪男担当

五 昭和56年度事業計画について
 六 その他

○大韓民国登山隊招請についての協力依頼
 ○傘下の会員に山岳保険の推進
 ○参与の推薦についての説明
 ○日本山岳会二王子岳山岳スキー講習会(昭和56年3月20日〜22日)の案内

以上の方角で常務理事会で

新潟鉄工山の会(会員15名)
 新潟市北葉町8-12北村方
 0252-731-1655

代表者 北村 猛
 満場一致で承認される。

代表者 北村 猛
 満場一致で承認される。

代表者 北村 猛
 満場一致で承認される。

協会・行事・活動報告

○栃木国体 別記

○国体委員会 10月15日～17日

日 栃木県 藤井参加

○理事会 別記

○北信越国体運営委員会

11月15日～16日 福井

室賀 石田 藤井参加

○婦人部(踏査登山) 11月15日～16日

日 五頭連峰(笹神村) 50名参加

○親睦登山(絡ヶ森山) 11月15日～16日

35名参加

○常務理事会 12月7日 長岡市けさじろ荘 13名出席

行事案内

新年会

期日 1月25日(日) 11時～15時

会場 新潟市西堀前通り6

清松(大和デパート向い小路に入る)
電話 〇二五二一三三―一六三九

会費 四〇〇〇円

申込 上・中・下越連絡所か 小林兼一郎まで
電話 〇二五四二二―一〇六四

なお当日苗場山小松原スキーツアー参加希望者を募ります。

登山指導者

山岳スキー講習会

期日 昭和56年2月5日(木) 2月9日(月)

会場 富山県文部省登山研修所

(実技) 歙崎山周辺
費用 約一万円

申込 1月10日(土)までに協会事務局へ

指導員研修会

期日 2月15日(日) 10時～15時

会場 長岡市西神田2

自治会館

電話 〇二五八―三三三―七三九〇

担当 指導委員会

杉原八百樹・田中栄弘

山岳スキー講習会開催のお知らせ

支部長 齊藤平七

日本山岳会の指導、遭対、委員会主催、越後支部共催で山岳スキー講習会が開催されます。

最近山岳スキーが大きく見直されている折柄、適宜を得た催しと思しますので多数のご参加をおすすめします。

期日 昭和56年3月20日(金) 22日(日)

場所 二王子岳(一四二一) 行程 20日午前新発田市体育館に集合(東京からの講習生20名と合流)の上出発、二王子神社コモリ堂で宿泊

21日 二王子岳往復、復路油コボシで講習会、コモリ堂泊

22日 スキー練習の上、月岡温泉朝日館にて懇親会の後、解散とする

食事 すべて自炊とする。

参加費 後日お知らせ

尚、日本山岳会員は会報「山」10月号を参照ください。

第36回国民体育大会山岳競技

新潟県予選会

期日 昭和56年4月11日(土) 12日(日)

会場 長岡市 東山連峰

日程 一日目 踏査競技 登攀競技

二日目 縦走競技

冬山登山について

群馬県より、谷川岳冬山登山の自主規制について依頼、

12月1日より翌年2月末日まで、谷川岳の冬山登山を自主規制されるよう連絡あり。

富山県より、冬山遭難防止対策についてお願いとして、資料(冬期遭難の原因、防止の心得、三ヶ月予報等)を添えて協力依頼あり。

長野県より、冬山遭難事故防止について依頼、冬山の特性への適応に欠ける登山者が

あり、遭難が多発している。安全登山の趣旨徹底のお願いあり。

おくやみ

10月5日、谷川岳一ノ倉沢、二の沢右壁の最終ピッチ地点において、三条駒草山の会、中野厚氏が落石事故に遭遇、付近の登山者の協力を得て降中、出血多量の為死亡されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

あとがき

協会の行事活動を委員会システムにし、足りないところを理事が補なうかたがは出き上がってききました。各委員会まだ満足とは言えないかも知れませんが、皆一生懸命頑張りと、会員皆様のお役にたとうと思っております。ご意見ご希望がありましたら協会迄ご一報下さい。